

# 福井大学工業会の歩み：卒業生と母校の連携（1938～現在）

## 歴代理事長（在職期間）



初代 伊藤 義朗 (M2)  
(1938～1940)



2代 竹内 久正 (D2)  
(1940～1966)



3代 黒川 誠一 (M10)  
(1966～2000)



4代 川上 英男 (A28)  
(2000～2014)



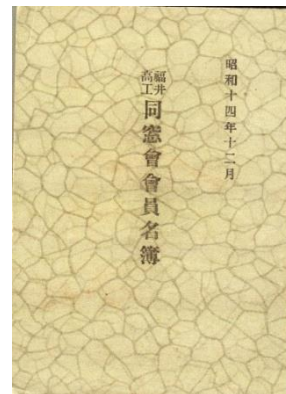
5代 堀 照夫 (D44)  
(2014～現在)

### ■「同窓会」設立までの経緯（母校創立15年後）

福井大学工学部の母体・福井高等工業学校が、1923（大正12）年12月に創立し、翌年4月の入学式から3年制の学校生活が始まり、第1期生の卒業は1927（昭和2）年3月となった。その後、卒業生が増えるにともない「同窓会」設立の声が出たものの、初代校長・關盛治は反対の立場を貫いた。關が熱く語る「植木鉢の松よりも、深山の松であって欲しい」との願いから、学校の歴史は浅く、馴れ合いの集団をつくるよりも、実社会で独り生き抜く人間力と専門力の向上を優先すべきという厳しい姿勢であったと伝えられている。この關の意志を2代校長・前田復三も受け継いだことから、創立10年を迎えても同窓会は実現しなかった。

ところが1933年の關の逝去に続いて1937年に前田が急逝し、その葬儀にあたって卒業生への連絡が取れないことに困惑した一期生たちが、3代校長の太田代唯六に懇願して快諾され、漸く「福井高工同窓会」が1938（昭和13）年3月に設立した。その発起人となった卒業生は以下の7名であり、この中から初代理事長の伊藤義朗、のちの2代に竹内久正が選出された。翌年12月に「同窓会会員名簿」が初めて発刊され、また講堂2階の「御真影奉安室」新設が母校への協力事業の始まりとなった。こうして各科を超えた卒業生／会員の繋がりと母校との連携協力が強化され、同窓会の組織づくりが徐々に進んだ。

<b>「同窓会」発起人 7名</b>	竹内 隆 (A2)
	伊藤 義朗 (M2)、山田治之助 (M3)
	竹内 久正 (D2)、武田文之助 (D2)
	池田 秀二 (T2)、中島 与作 (T5)



『福井高工 同窓会会員名簿』  
1939（昭和14）年12月

### ■戦後「同窓会」から「工業会」へ：会誌の発刊、会員・母校の連携

戦後直後の同窓会は、会員の消息を確認するために名簿作成を開始して、『福井工業専門学校同窓会会員名簿』（1948/4）を不十分ながら編集発刊した。新制福井大学となった1950年に「工業会」と改名し、新聞状の「会報」を断続的に発刊したものの、以下のような変遷を経て1964年の第14号からB5版冊子となり、現在のような年1回発行の編集形式が定着した。

<b>福井工業会会報</b> 第1・2・4号（不明）、第3号（1950/6）
<b>福井大学工業会報</b> 第5号（1956/1）～第13号（1963/4）
<b>福井大学工業会誌</b> B5版 第14号（1964/3）～第49号（1998/4）・・・工学部50周年
A4版 第50号（1999/4：A4版）～現在・・・工学部90周年・100周年

1966年から3代理事長・黒川誠一のもとで全国的な支部体制が広がり、母校との多様な連携も活発化して、1973年の創立50周年を迎えた。さらに会誌50号を機にA4版の編集発行となり、また21世紀の新しい時代に向けた2000年には、大学一期生の川上英男が4代理事長に就き、創立90周年記念事業を成し遂げた。そして2014年に5代理事長となった堀照夫を中心に、2023年の創立100周年記念を迎えることになる。

★参考文献 竹内久正 (D2)「三十年を回顧して」福井大学工業会々報 第8号 (1957/12)

藤田 正 (T4)「むかしばなし」福井大学工業会誌 第18号 (1967/3)

澤崎吉太夫 (M17)「福井大学工業会の歴史」福井大学工業会誌 第39号 (1988/4)